



今まで貴重な クラシックスタイルのブックメーカー



着順掲示板はおじさんが白墨で書くシステム

世界旅打ち気分

●第54回・猛暑で急遽振り替え開催

オーストラリア・バーサースト競馬場

須田鷹雄

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

入場者は30人か、多めに見積もつて50人というところ。バーサーストは通常開催だと「よく普通カンブリー競馬場なのだが、この日はピクニック開催なのでノントAB」という、場外発売の無い開催だった。つまり、この日の競馬で賭け金を投じたのは私を含めて30人だけということになる。本場入場者にしか馬券を売らない開催は他のピクニック競馬やアメリカのミュール開催（いまでは廃止になったワイナマッカ）に行つたこ

急遽の振り替えは想定されていなかつたので、対応はだいぶバタついていた。筆者はコノドボリンの入場券を前売りで買い、しかも田舎のピクニッククラブに寄付するつもりで40ドルの「メノバー券」(年1日の開催)を買っていたのである(通常入場料は20ドル)。このチケットでバサーストの競馬場に入ることはできたが、バサーストではメンバーのエリアが区切られてはおらず、メンバートークンのドリンク無料も反古にされてしまった。そもそも競馬を運営する人たちが別人ばかりになつたので、仕方ないのである。

「ハドボリンには駅港が無いので、ハドニーからパークスという街へ飛び、そこに泊まりてハンドボリンまで日帰りする」としていた。開催の数日前になり、1レースの発走時刻が何時なのか調べようとシーズンオーストラリアのウェブサイトに行つたところ、「なぜかその日」と書いてある。「バサースト(ピクニッキン)」「ハドボリンから250キロほど離れている。」これはどうしたことか?

先日、オーストラリアのセリに参加したあと、そのまま現地に残つて未踏破の競馬場を何か所か訪問してきた。

行ったのは2月だったので、日本だと8月にあたる。猛暑の盛りなので暑いことは覚悟していた。しかし、自分の我慢ではどうにもならないことが発生したのである。

今回の旅で、いちばん楽しみにしていたのが「ハンドボリン」という競馬場。アマチュア騎手のみが騎乗できるピクニック開催で、その競馬場で開催が行われるのは年に一日の

「Jのクラシックスタイル、クイーンズランド州などで見た」とはあります。だが、台帳の写真を撮つたことがなかつた。そこで馬券を買うついでに「クラシックスタイルですね」みたいに話しかけ、台そのものと台帳の写真を撮らせてもらつ」とができるた。

とがあるが、これだけ人が少なかつたという経験はない。先述したように、来ていたブックメーカーは2台のみ。そのうち1台はクラシックスタイルとか、すべてがアナログ。いまの時代は出走馬名やオッズがデジタルサイネージで表示されるのが普通だが、この業者は馬名が手書きで表示され、オッズも小さな方向指示幕のようなものをくるくる回して変更する方式だ。馬券を注文するときおじさんが巨大な台帳に投票内容をメモする。そして渡される馬券は、紙に手書きで馬名との中時の払い戻し額を記入したものである。

場所がそれだけ離れると旅程も変わってくる。パークスのホテルはキャンセルできたが飛行機とレンタカーはできないので、いつたんパークスに飛んでバサーストまで無駄に運転。さらにバサーストに宿をとり直したタイミングが悪く、モーテルに泊った。モーテルに泊ったので、モーテルに泊まることになった。

バサーストの競馬場に行つてみると、とにかく人が少ない。コンドボリンドで実施されていれば年イチのお祭りなので地元民がたくさん来場したはずだし、ファッショント

か、それとも「ハンドボリン」なのか。
「ハンドボリン」と「クランク」の
ホームページに行つてもなんのお知
らせもない。バサーストのはうを調
べてもない」もなし。

する写真展示があり、「」でヒューバウマン騎手がバサーストで騎手修業を始めたことなどが書かれていた。一方で展示品の整理はわりと雑で、古めかしいカツプ類が並ぶ横に日本のぬいぐるみが置かれ、その手前にはなぜか中央競馬ピーアールセンターの名刺が。後で確認したところ、小崎綾也騎手の撮影にきたときぬいぐるみをお土産に持参し、それが名刺もろとも展示されてしまったとのことだつた。

くれ、さらには「台と一緒に写真撮るから、ブックメーカー」JW「みたいな写真撮れよ」とオファーしてくれた。客が30～50人しかいない競馬場で一日を過ごしたのは互いに貴重な経験だったかも知れない。

いきなり開催されることになつたバサーストの体制はとにかくすべてがミミマミで、食べ物は急遽出店することになった家族が売るソーセージサンドのみで選択肢なし。バーも2階のエントロン部屋のみで、そこに居る客も2～3人というところだった。

Jのエントロン部屋にはバサースト競馬場の歴史や名馬名騎手に関する

み」との答え。」の田2台だけ出でていた「ブックメーカー」の片方でおばちゃんに聞いたところ、「猛暑よー」との答えだった。

ちなみに、「おばちゃんの答えは正解だつた。あとでレーシングオーストラリアの「過去のお知らせ欄」で見たのだが、コンドボリンでは摂氏40度の予報が出ていたので、バサーストに振り替えられたのだった。オーストラリアでは馬の健康のために猛暑のため開催が中止になつたり、開催競馬場が変更になることはよくある。それにぶち当たつたのだ。ただバサーストも35度で十分に暑かつたの

ンザファイアード（ベストドレッサー賞）などイベントも設定されています。しかし、月に一回くらい競馬開催があるバースト民にとってわざわざピクニック開催に行く必要はないし、遠くの競馬場に移動になつたことでスクランチ続出、5~6頭立てばかりの開催とあつてはなおさらである。